農業と科学　昭和62年7月1日(毎月1日発行)第363号
昭和31年10月5日　第3種郵便物認可
発行所 〒112 東京都文京区後楽1－7－12林友ビル
チッソ旭肥料株式会社
編集兼発行人：柴田　観
定価：1部35円

農業と科学
CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD
1987
7

昭和62年度
農業観測の概要

農林水産大臣官房調査課
田村修一

以下は，6月10日に農林水産省が公表した「昭和62年度農業観測」の概要をとりまとめたものである。

1. 国内経済

61年度の国内経済は，個人消費，住宅投資を中心に国内需要は緩やかに増加する一方，円高の進展等により輸出が弱含みであること等から鉱工業生産は基調としては停滞傾向で推移しており，全体として景気は底固さはあるもののその足取りは緩やかとなり，61年度を通じた実質経済成長率は2.6％となった。

62年度の国内経済は，政府経済見通しでは，物価の安定を基礎としつつ，内需を中心とした景気の着実な拡大を図り，実質経済成長率は3.5％程度になるものと見込まれている。しかしながら，我が国経済は民間活動がその主体をなすものであること，特に国際環境の変化には予見し難い要素が多いことから，今後はアメリカを初めとする海外経済の動向，円相場や原油価格の動向等について注視する必要がある。

2. 農業就業人口

農業就業人口は近年減少傾向が続いており，61年度も1.6％減となったが，雇用情勢が弱含みに推移する等のなかで女子が10月以降前年同期に比べ増加に転じ，全体でも11月以降増加した。

62年度の農業就業人口については，引き続き農業就業者の高齢化による引退等自然減が見込まれるものの，円高不況による雇用情勢が厳しさを増せば，地域によっては農業への従事者が増加するところもあるとみられる。

3. 農業生産資材価格

農業生産資材の農村価格は，近年，円高による海外原材料輸入価格の下落などから値下がりしており，61年度は，飼料穀物の国際価格の低下や原油価格の大幅な下落に加え，円高による原材料輸入価格の下落等を反映して飼料，肥料，光熱動力等が値下がりしたことから，年度間では4.9％安となった。

62年度については，原油価格の反発はあるものの，円高傾向が続いていることや卸売物価もわずかな上昇にとどまるとみられていること等からみて落ち着いて推移するとみられ，年度間では1～3％程度下回ると見込まれ

表1　主要な農業生産資材価格の動向

(対前年度 騰落（▲）率（%））

年次	農業生産資材総合	肥料	飼料	農薬	光熱動力
55年度	11.7	21.5	15.9	6.5	26.7
56	3.2	6.3	3.2	3.8	6.8
57	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 4.9	▲ 0.1	6.4
58	▲ 0.5	△ 1.4	2.3	▲ 1.2	▲ 9.0
59	0.3	▲ 0.8	0.1	△ 0.1	▲ 2.6
60	△ 1.9	▲ 0.1	▲ 8.2	0.1	▲ 4.0
61(概算)	▲ 4.9	▲ 5.0	▲ 17.0	▲ 0.3	▲ 16.5

本号の内容

§ 昭和62年度
農業観測の概要……(1)
農林水産大臣官房調査課
田村　修一

§ シラス水田における
LPの肥効について……(5)
鹿児島県農業試験場
土壌肥料部主任研究員　上村　幸廣

る。

4. 農産物需要

経済の高度成長期を通じて高い伸びを続けていた食料消費は，近年，食料消費水準もかなり高いレベルに達したこともあって，経済の安定成長のなかでその伸びは低水準にとどまっており，61年度も，１人当たり実質食料費支出（全世帯）は0.8％の増加にとどまった。

62年度の農産物の最終需要に影響する実質飲食費支出は，次のような諸要因からみると，前年度の伸び程度のわずかな増加にとどまり，農産物需要もわずかな増加にとどまると見込まれる。①62年度の政府経済見通しによれば，実質民間最終消費支出は3.4％程度の増加，消費者物価は1.6％程度の上昇と見込まれている。②62年度の農産食料品（水産物を除く）の消費者価格は，今後の円相場の動向等にもよるが，１％を下回るわずかな上昇にとどまると見込まれる。③家計における食料消費支出については，食料消費水準が量的に飽和状態に近づいていることや非消費支出の増加等から，食料消費支出の伸びの鈍化傾向は今後も続くと予想される。

5. 農産物供給

（国内農業生産）

61年度の農業生産は，繭生産が12.3％減少したものの，耕種生産が0.3％程度，畜産生産が0.7％程度増加したとみられる。このため，農業生産総合では，総じて豊作だった前年度をさらに0.3％程度上回ったとみられる。

62年度の農業生産については，①耕種生産は，作柄を平年並みとみれば，麦類がかなり，果実がわずかにそれぞれ増加し，前年度作柄のよかった豆類及び野菜がそれぞれほぼ前年産並み，いも類がかなりの程度，工芸農作物がわずかにそれぞれ減少すると見込まれる。米については，「米穀の管理に関する基本計画」によれば，生産予定数量（主食用等）1,010万トンに加え他用途利用米約35万トンの計1,045万トンの生産が見込まれている。このため，耕種生産総合では５％程度減少すると見込まれる。②繭の生産は大幅に減少すると見込まれる。③畜産生産については，生乳が前年度並みないしわずかに減少，肉用牛，豚がほぼ前年度並み，ブロイラー及び鶏卵が増加するとみられ，畜産生産総合では１％程度増加すると見込まれる。以上のことから，農業生産総合では総じて豊作となった前年度に比べ３％程度減少すると見込まれる。

（農産物輸入）

農林水産省「農林水産物輸出入の数量・価格指数」により農産物の輸入量をみると，61年度は，円高や穀物の国際価格の低下等を反映して輸入価格が大幅に下落（輸入価格総合で27.0％下落）したこと等から，果実・その調整品，食肉・その調整品等が大幅に増加し，全体では9.2％増加した。

表２　主要農産物の輸入数量指数の動向

（対前年度 騰落（▲）率（%））

区　分	58年度	59	60	61
農産物総合	6.1	2.2	3.6	9.2
うち				
小麦	1.0	1.6	▲ 6.5	2.0
大麦	35.2	2.4	▲ 1.3	▲ 17.2
とうもろこし（飼料）	1.7	▲ 8.2	3.1	2.1
グレーンソルガム（飼料）	4.9	38.8	6.2	▲ 2.1
大豆	5.4	▲ 3.7	4.9	0.7
菜種	▲ 0.6	4.0	14.2	8.0
粗糖	1.9	▲ 4.9	▲ 2.5	▲ 1.2
バナナ	▲ 24.0	21.7	▲ 1.7	12.4
レモン・ライム	9.4	5.6	▲ 11.3	14.7
オレンジ	3.8	6.7	19.1	6.5
グレープフルーツ	7.5	▲ 17.5	▲ 6.9	49.0
パインアップル	▲ 20.0	21.3	13.9	8.9
その他の生鮮果実	100.8	31.4	67.6	24.4
牛肉	4.5	3.1	5.3	17.7
豚肉	36.7	▲ 3.2	3.9	7.4
羊肉	▲ 15.5	1.9	2.3	0.3
馬肉	▲ 7.6	8.7	▲ 5.1	▲ 9.6
鶏肉	▲ 8.1	12.6	2.2	64.3
酪農品・鳥卵	▲ 1.8	2.2	3.6	9.1
農産物輸入価格指数（総合）	▲ 0.4	2.9	▲ 15.0	▲ 27.0

注：牛肉、豚肉には、くず肉、臓器を含まない。
　　その他の生鮮果実は主にキウイフルーツである。

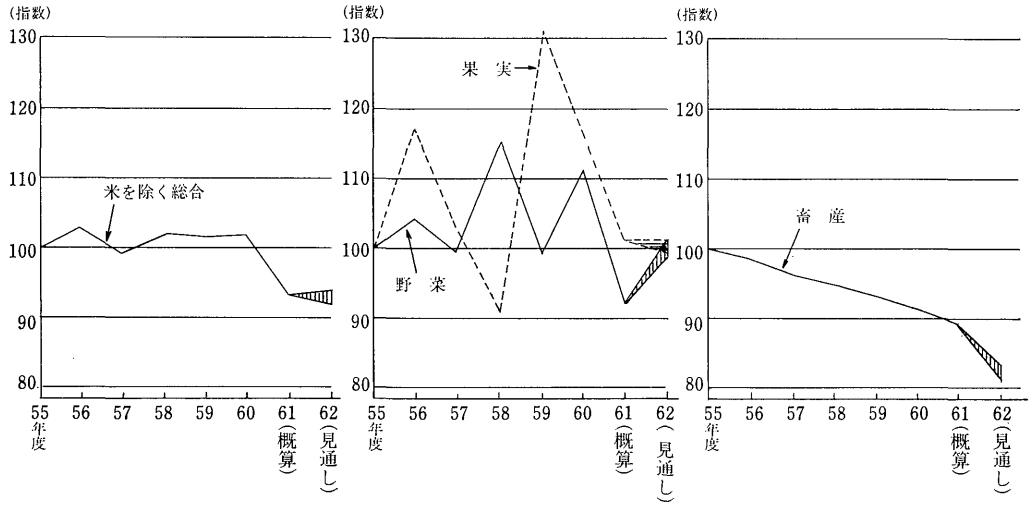
62年度の農産物輸入量は，今後の円相場の動向等にもよるが，輸入価格の下落幅が縮小傾向にあることから，前年度に円高で急増した品目は総じて伸びが鈍化するとみられる。しかし，需要が堅調な生鮮果実，食肉等は引き続き増加するとみられることから，全体ではやや増加すると見込まれる。

6. 農産物生産者価格

61年度の農産物生産者価格は，野菜が天候に恵まれて作柄が安定したことから16.8％下回り，果実も輸入増等から12.4％下回ったほか，畜産物も2.7％下回った。このため，農産物総合では5.6％の下落となり，57年度以来のマイナスとなった。

62年度については，需給が総じて緩和基調で推移するとみられることから，米を除く総合では前年度をわずかに下回ると見込まれる。主要品目についてみると，①野菜は，春野菜がほぼ前年産並み，夏秋野菜がわずかないしやや上回り，秋冬野菜は価格が低迷した前年産に比べ

図1　農産物生産者価格の動向（55年度＝100）



かなりないし大幅に上回るとみられ，年度を通じてはかなりの程度上回ると見込まれる。②果実は，りんごが供給量の動向等からみてほぼ前年産並み，ぶどう及び日本なしが供給量の減少からぶどうがわずかに，日本なしがややそれぞれ上回るとみられるものの，みかんが表年による供給量の増加等からかなりの程度下回るとみられ，全体ではわずかに下回ると見込まれる。③繭は前年産をかなり大きく下回ると見込まれる。④畜産物は，肉用牛がほぼ前年度並みとみられるものの，鶏卵が大幅に，肉鶏がかなり，生乳，肉豚がややそれぞれ前年度を下回るとみられ，全体ではややないしかなりの程度下回ると見込まれる。

7.　農家経済

61年度の農家経済（全国1戸当たり平均）をみると，農業粗収益は，野菜，果実等農産物価格の下落から1.5％減少した。一方，農業経営費は，農業生産資材価格の下落はあったものの減価償却費の増加から0.6％の減少にとどまり，この結果，農業所得は前年度を3.0％下回った。他方，農外所得は1.9％増，出稼ぎ・被贈・年金扶助等の収入は3.2％増となり，このため，農家総所得では伸びの鈍化はあるものの1.4％増と引き続き増加した。

62年度については，①農業総産出額は，農産物生産者価格の見通しからみてやや減少すると見込まれる。②投入経費は，資材の投入量，価格，固定資産償却の状況からみて，わずかに減少すると見込まれる。こうしたことから，全国1戸当たり平均でみた農業所得は，総じて豊作であった前年度に比べやや減少すると見込まれる。他方，農外所得はわずかに増加するとみられること等から，農家総所得ではほぼ前年度並みと見込まれる。

8.　海外農産物需給

1986／87年度の世界の小麦及び飼料穀物の需給は，在庫率がさらに高まることから，引き続き過剰基調で推移

表3　農家経済の動向（全国1戸当たり平均）

（対前年度増減（▲）率（%））

区　分	60度年実額（千円）	57年度	58	59	60	61（概算）
農業所得	1,065.5	▲1.7	4.0	7.6	0.0	▲3.0
農業粗収益	2,896.8	0.9	4.5	6.2	1.4	▲1.5
農業経営費	1,831.3	2.5	4.8	5.3	2.2	▲0.6
うち現金支出	1,251.3	0.6	3.9	4.7	0.8	▲2.9
農外所得	4,437.0	5.5	3.0	4.0	3.3	1.9
農家所得	5,502.5	4.0	3.2	4.7	2.6	0.9
出稼ぎ・被贈・年金扶助等の収入	1,413.4	9.2	7.9	2.7	1.7	3.2
農家総所得	6,915.9	5.0	4.1	4.2	2.5	1.4
可処分所得(実質)	5,260.6	2.3	2.9	2.9	▲0.3	2.6
家計費(実質)	4,296.8	1.6	2.7	2.9	1.0	1.8
農家経済余剰	1,054.4	7.5	4.0	4.0	▲4.1	0.3
固定資産購入額	1,083.3	▲0.3	▲0.5	4.8	5.0	▲8.3

すると見込まれている。また，世界の大豆需給も，在庫率が高水準を維持することから，引き続き過剰傾向で推移すると見込まれている。

1987／88年度については，以下のとおりである。

(1)　小麦

小麦生産量は，アメリカでは作付削減計画の実施により作付面積が減少するとみられるものの単収の回復が期待されることからわずかに増加するとみられているが，ソ連では例年以上のウインターキル（寒さによる冬枯れ）の発生，中国での干ばつの影響等から，世界全体ではやや減少すると見込まれている。

また，消費量もわずかに減少すると見込まれることから，需給は引き続き過剰基調で推移すると見込まれる。

(2)　飼料穀物

飼料穀物生産量は，中国，西欧等で増加するとみられるものの，世界全体の約3割のシエアを占めるアメリカで作付削減計画の強化によりかなり減少するとみられ，また，カナダ，東欧でも減少するとみられること等から，世界全体ではやや減少すると見込まれている。

一方，消費量はわずかに増加するとみられるものの，高水準の繰越在庫が見込まれることから，需給は引き続き過剰基調で推移すると見込まれる。

(3)　大豆

大豆生産量は，世界全体の約6割のシエアを占めるアメリカで作付面積が減少するとみられることからかなり減少するとみられるものの，ブラジル，中国，アルゼンチン等では，大豆は重要な外貨獲得作物であることから，天候が順調に推移すれば増加するとみられ，世界全体ではほぼ前年度並みと見込まれる。

一方，消費量は引き続き増加するとみられるものの，高水準の繰越在庫が見込まれることから，需給は引き続き過剰基調で推移すると見込まれる。

表4　世界の穀物・大豆の需給動向

（単位：100万t，%）

区分		1981/82年度	1982/83	1983/84	1984/85	1985/86	1986/87（見込み）	1987/88（予測）	対前年度増減(▲)率
生産	小麦	449.5	477.3	489.5	511.5	498.8	529.2	508.8	▲ 3.9
	飼料穀物	766.3	784.2	686.9	814.0	845.7	839.1	810.4	▲ 3.4
	大豆	86.6	93.7	83.0	92.9	97.1	98.7	------	——
消費	小麦	443.6	462.0	482.2	495.6	487.3	517.4	506.9	▲ 2.0
	飼料穀物	738.2	752.9	761.8	783.1	770.7	800.4	821.5	2.6
	大豆	87.8	91.3	86.5	89.5	91.2	97.2	------	——
期末在庫	小麦	87.0	102.3	109.5	125.4	136.8	148.6	150.4	1.2
	飼料穀物	120.4	151.8	76.9	107.8	182.8	221.6	210.5	▲ 5.0
	大豆	15.9	17.9	15.0	18.5	24.1	24.9	------	——
在庫率	小麦	19.6	22.1	22.7	25.3	28.1	28.7	29.7	——
	飼料穀物	16.3	20.2	10.1	13.8	23.7	27.7	25.6	——
	大豆	18.1	19.6	17.3	20.7	26.4	25.6	------	——

注：1）年度は、小麦が7～6月、飼料穀物及び大豆が10～9月である。
　　2）飼料穀物は、とうもろこし、大麦、えん麦、ソルガム、ライ麦、ミレット、ミックスドグレーンを含む。
　　3）在庫率は、期末在庫を消費で除したものである。

表5　昭和62年度農業観測総括表

区分	単位		実数又は指数 59	60	61（実績見込み）	対前年度増減(▲)率（%） 59	60	61（実績見込み）	62年度見通し
実質飲食費支出	実数	55年価格（千億円）	464.1	475.8	485.5	1.5	2.4	2.2	わずかに増加
農業生産	指数	55年度＝100	109.8	110.8	111.1	4.8	0.9	0.3	3%程度減少
農産物生産者価格	指数	55年度＝100	103.2	103.2	97.1（概算）	0.4	0.0	▲ 5.6（概算）	わずかに下回る
農業生産資材価格	指数	55年度＝100	102.7	100.8	95.9（概算）	0.3	▲ 1.9	▲ 4.9（概算）	1～3%程度下回る
農産物輸入	指数	55年＝100	113.7	117.8	128.6（概算）	2.2	3.6	9.2（概算）	やや増加